

令和7年度古賀市男女共同参画計画実施状況報告書（令和6年度事業）

効果的な取組方法への助言

1. 引き続き、様々な場において啓発を行い、より多くの人々にメッセージを届けることを期待する。
2. 「まちづくり出前講座」をより多くの団体に実施し、継続して広めていくことが望まれる。その積み重ねにより、人々の中にある思い込みや偏見が少しづつ和らぎ、最終的には日本のジェンダーギャップ指数（2025年118位）の改善にもつながっていくことを期待したい。
3. ~~計画の成果指標は、計画実施状況の前に移動する方が良いように思う。~~
- 3-4. 男性の育休取得など、市職員における実績を積極的に周知することで、後に続く事業所が増えしていくことを期待する。
- 4-5. 次期組長が入れ替わる前年の組長会において、実際に活動を担う方の氏名を提出するよう、区長から呼びかけるなどの工夫を行ってはどうか。
- 5-6. ジェンダーギャップ指数への関心を高め、男女が歩み寄り、補い合う体制を調える為、今一度どうすれば良いかの原点を見極めた方がよい。
- 6-7. 自治会役員の担い手が不足しているからこそ、女性の参画を積極的に呼びかけることが大事と思われる。女性自治会長もいることからモデルとして他の自治会に紹介することなど検討してはどうか。
- 7-8. （基本目標Ⅲに対し） 計画の見直しにおいて、施策を整理する必要があるのでは。
- 8-9. 生活困窮者（ひとり親家庭を含む）の相談では、本人が困りごとに気付かず、周囲の声かけをきっかけに相談に至る頃には問題が深刻化しているケースが多い。悩みをかかえた人が気軽に相談できる雰囲気作り等の工夫が必要かと思われる。

9+10. 「古賀市地域活動サポートセンターの機能や役割、介護予防サポーター活動等については、市ホームページや広報、チラシ等で周知を行っているが不十分である」とのことだが、冊子（例：おるねやこがんと）に『これって知ってる？コーナー』を設けて、ワクワクする話題と一緒に載せる工夫等を行ってはどうか。

10+11. 困難を抱えた男性介護者が潜在化しないように、夫や息子が介護者の場合には支援が届きやすいよう工夫をお願いします。

11+12. 困難女性支援の観点から、望まない妊娠に対して、福岡県妊娠 110 番などの周知を徹底してはどうか。

12+13. 若年層向けのデート DV 防止啓発はできているので、もっと上の年代に DV 防止の啓発を行う方法を工夫してはどうか。

13+14. 大変な内容の相談があった場合にも、適切に対応できるよう、シミュレーション等の方法を活用して準備を整えておくことが望まれる。

14+15. 多様性を象徴するレインボーフラッグの小物類を、日常的におしゃれに持ち歩ける形で提供できるとよい。強化月間に合わせて販売等を行い、楽しみながら多様性の理解を広める取組として展開してもよいのではないか。

15+16. PDCA サイクルを意識して、可能な限り目標は数値化してその成果（実施回数、参加者数、比率、該当する市のホームページへのアクセス件数等）も数値で示して評価し、次年度への課題を明確にすると良いように思う。